

平成 30 年度 大阪府立福井高等学校 第 3 回学校運営協議会議事録

日時 平成 31 年 3 月 7 日 (水) 14 : 00～15 : 45

場所 本校 校長室

1 校長あいさつ

一般選抜の志願者、定員割れという現状。

決して、順風満帆ではない。ご意見をいただいて、生かしていきたい。

2 会長あいさつ

お忙しい中ですが、よろしくお願いします。

教頭より

学校経営計画についてご意見をいただき、承認いただくのが、一番の目的。

今年度の取り組み、自己評価とリンクさせながら、ご意見をいただきたいと思います。

3 事務局より活動報告

・入学者選抜概況

一般選抜 195 名の出願で定員割れした (定員 240 名)。

特別枠は、14 名募集のところ、出願 10 名であった。

3 月 19 日合格発表後 22 日に二次募集、27 日に合格発表。

今年度、入ってくる生徒を、どこまで育てていけるか、

31 年度、生徒を集めていくか、福井高校どうしていくかご意見をいただきたい。

(注 : 二次募集等の結果、2019 年度の 1 年生は 220 名でスタートしています。)

・広報活動総括

目的は、理解を促す。

中学校訪問は、前回と同様、昨年より学校数を増やした。

遠方からの受験する生徒が出てきたため、成果が出てきたという印象。

オープンスクールの申し込みに関しては、HP からの申し込みが増えた。

すべて HP からにするか検討中

(注 : 地元中学校の意見を伺い、一部従来の方法も残すことにした)。

学校説明会、西淀川区の説明会初めて参加。成果を上げている。

HP に関しては、186 件のブログの更新を行った。現在、HP を一新して作成中。

・生徒指導部

今年の懲戒件数は、2・3年生は半分以下となったが、1年生が増加した。
また、遅刻数、1年生が倍増したため、全体でも20%増となってしまった。
懲戒の件数は全体としては減っているが、1年生への対応に苦心している。
内容としては、原付・自動二輪関係は減少したが、
自分の気持ちをうまくコントロールできずに問題事象を起こす生徒が増えている。
一人一人の生徒とコミュニケーションをとりながら、
コミュニケーション能力を伸ばしていく指導を根気強く行っている。

・特別活動部報告

今年度、クラブの活動としては、ダンス部が全国大会に出場。
中国語の弁論大会で全国大会に出場した生徒もいる。
他の各部も頑張っているが、1年生の入部率が伸び悩んだ。

・質疑応答

【委員】

生徒指導の報告で1年生が大変とのことであったが、月別ではどうか？

【学校】

夏休みまでが中心。その後は生徒・教員の関係性ができていくのにつれて低減した。

【委員】

生徒指導だけではなく、学年・担任と連携できることは？

【学校】

今年度の経験をもとに、じっくりと、話をして、お互いに理解しようとする姿勢で、
新1年生については、入学直後から取り組めたらと考えている。

【委員】

新1年生が良いスタートを切るには、中学校との引継ぎが重要である。しっかりと行って欲しい。

【学校】

30数校について、中学校訪問で聞き取りを行う予定。
入学後も中高連絡会にて、情報交換を行うなど、中学校との関係は大切にしたい。

【委員】

1年生については、中学校の時とは別の集団と関わることもあるので、
想定外や足りない部分などもあったのではないかと思っている。

【委員】

個別の支援計画の引き渡しは？

【委員】

保護者に一度返して、保護者から引き渡してもらおう。

保護者には、高校に渡してもらったほうがいいスタートが切れると伝えている。

【学校】

中学校と連携していたが、これまでの経験を超え、対応に苦慮することも多かった。

生徒の特性の把握が進むとともに、学校の対応も徐々にうまく行きつつある。

生徒が少しずつ落ち着いてきた。

【委員】

先生方の勤務状況は？

【学校】

超過勤務時間は、少しは短くなっているが、まだ大幅超過の状態。

・33期生進路状況

進路状況について説明

大学の合格者は指定校推薦が中心。

文部科学省が進める大学の定員の厳格化で、各大学が合格者を絞っているため、

去年までだったら合格していた生徒が合格できない状況。

専門学校に進む生徒、特に衛生・文化教養の生徒が増えた。

夢を追って進学するという生徒が増えている。

・人権保健部

人権 HR にて、例年と同じような取り組みを継続している。

1年生では、携帯に関する問題。

2年生では、障がいのある生徒がいるので、車いすダンサーの講演を聞いたりした。

教員研修については、「ダウン症」「セクハラ・パワハラ」に関する内容を行った。

事例検討会も、年3回行って、特性を持った生徒について情報を共有する取り組みもしている。

困っている保護者に対しては、SWなどでサポートも行っている。

1年生に関して、教室に入れず、保健室を訪れる生徒が急増した。

そのため、学年室にて様子・状態を聞いた後に、必要な生徒だけ保健室に送る試みを、今年初めて行った。

結果、かなり来室も減り、教室にも入れるようになった。

丁寧な関わりをすることで落ち着いていくことを実感している。

・多文化共生プロジェクト

1年生では、特別枠以外に一般入試でも外国にルーツを持つ生徒が複数入学し、

合計19名に日本語指導が必要であった。

言葉が通じないことで、日本の生徒と、また違う外国ルーツの生徒間で、トラブルになったこともあった。コミュニケーションツールとしての「日本語」の必要性や、日本語の指導の重要性を痛感する場面が度々あり、今後の課題である。

一方、校外での活動（ボランティアなど）で活躍したり、小学校・中学校に出向いて体験・想いを語る場で活躍したりして、良い個性を発揮する生徒も多くなった。

進学先は多様。

日本語検定。英検も積極的に受けている。

全般的な言語・文化だけでなく、個人の特性などについても配慮が必要な生徒もいる。

※以下、外国にルーツを持つ生徒についてコスモス生と記述

【委員】

コスモス生の成長もあるが。まわりの生徒の成長については？

【学校】

現状、コスモス生と一般の生徒に関しては、文化の摩擦がめだっているが、その経験こそが相互の成長につながると考えている。今後どう調整していくかが課題。

・国際交流報告

今年度は、韓国とオーストラリアへのスタディーツアーを行った。

これまでのカンナム高校ではなく、「誠庵国際貿易高校」で受け入れていただいた。

ただし、「誠庵国際貿易高校」は女子高のため、継続の可否、行き先について、検討・見直しを行う。

日本中国友好協会中国語スピーチコンテストにおいて全国大会出場など、中国語弁論大会等で、たくさんの賞をいただいた。

・総合学科推進会議報告

総合学科2期生までが、3年間過ごした中で見えてきた課題解消のため、

新学習指導要領のカリキュラムを想定しながら、カリキュラムの見直しを検討中。

3年次に行っている「ドリカムテイクオフ（課題研究）」であるが、

3分の1の生徒がテーマについて、満足していないという結果であった。

テーマ設定について更なる検討が必要。

福井ドリカムフェスタは昨年と同様に、「茨木フューチャープラザ」で行った。

・Yプロ活動報告

新任教員などのサポートとして行っている。

福井小学校との連携をとっており、出前授業の依頼にもこたえた。

若手交流会も行っている。

相互授業の見学期間を短期集中で行い、意見交流の場も設けた。

・学校教育自己診断表まとめ

生徒の評価は上がっている。

『学校に行くのが楽しい』、『教え方に工夫している』が上がっている。

保護者の評価は、コスモスに対して高い評価がついている。

生徒指導への意思疎通や生徒指導に対する説明について評価が上がっている。

※校長よりコメント

【確かな学力の定着】

・生徒の肯定的な意見が出ている。

【キャリア教育の推進】

・進路決定率 85%は合格点。

【安全で安心な学びの場づくりの推進】

・人権研修等は、しっかりやってもらっている。

・部活動の定着が難しい。

・教員の残業時間については、10%削減をめざしたが7%にとどまった。

【地域連携】

・本校の看板。コスモス生徒が小学校に訪問して好評をいただいている。

・経営計画について

※ 3年計画で経営計画を立てている。

※ 網掛けが変更部。

※ 総合学科として新学習指導要領を導入することを見込んで計画している。

普通科総合選択制のエリアの時と比べて、福祉についての生徒のイメージ、あるいは福祉をめざす生徒の層が変わってきている。

普通科総合選択制のよかった点もフィードバックしながら生徒にとって分かり易い選択指導を行う。

※ 主体的対話的で深い学びをめざし、授業力向上プロジェクトを立ち上げる。

2021年度の肯定的回答5%上昇をめざす。

※ 各種検定等を積極的に推進。

※ 相互授業見学月間を積極的に行う。

※ 部活動の加入率：50%をめざす。

・その他

【教頭】

総合学科、昨年・今年と他校でも定員割れ。厳しい状況。

【委員】

総合学科はつかみづらい。いったい何を行っているのか？というのが現状。

漠然としすぎて、目標がつかめないというのがあるのでは？

高校3年が終わった時に、どういう進路に進むのか、何かイメージできることが必要。
新学習指導要領は、総合学科の理念に近いのだが。

【委員】

中学校の立場からだと、子どもの成長が以前に比べてゆっくりしており、
判断して選択する力が、まだまだ身につけていない印象。

そのため、高校選択でも路線に乗っているところに行きたがる。

「正解はなんだ」と求める生徒が多い。

「深い学び」追求できる授業めざしているが、チャレンジテストとの関連があったり、
高校入試との関係もあって、苦心している。

保護者のニーズもまだそちらには向いていない。

【委員】

ドリカムフェスタについて、中学校の生徒への案内はあるのか？

【学校】

中学校の先生には何名か来ていただいて、良い評価をいただいた。福井高校の具体的なイメージ
が持てる良い機会と思うが、会場の収容人数との関係で大掛かりには案内しにくい。

【委員】

代表者のプレゼンを、中学校に行って、発表したりするのはどうか？

中学校3年生にアピールするのが重要。

「君が必要なんだ」ぐらいの直接本人へのアピールが必要。

【学校】

中学生が見に来るぐらいまで指導していく必要がある。検討する。

【委員】

総合学科に変わってからの印象は、

1年目は、中学校の先生は、総合学科の内容が詳細に分からないため、
個性の強い生徒を送ったと思われる。そういうものではなかったという考えから、
2期生から、普通科に近い生徒を送ってきた印象である。

中学校との連携をこれだけしていても定員割れが起こるということは、
原因に対応しづらいということである。

打つ手は、打っていると思う。

高校側はある意味待つしかない。

しかし、定員割れしたときの生徒は、
いつまでも、「定員割れをした」気持ちをもっている。

その点については、注意して見守って欲しい。

【校長】本日はどうもありがとうございました。